

佐賀ユース クライミングクラブ

目指すは世界！

▶クライミングクラブ
のみなさん



佐賀ユースクライミングクラブは、多久市を拠点に平成22年に活動を開始し、今年で4年目。中学生4人（男性1人、女性3人）、小学生7人（男性3人、女性4人）が、毎日多久高校のクライミングウォールで練習しています。

みなさんも一度は見たことがあると思いますが、競技者が人工的につくられた壁（リード壁）をリードと呼ばれる命綱のロープで確保された状態で、壁につけた突起（ホールド）を上手く使いながら登るスポーツで、近年は日本でも人気が高まっています。

このクライミングウォールは、西日本トップクラスで県内では多久高校にしかなく、メンバーは恵まれた環境で練習しています。また、実際の岩場を登るほか、雨天時には、室内に設けられたボルダリング設備で練習を行っています。

代表の樋口義朗さんは「世界大会もある競技で、現在のメンバーには可能性を感じられる子どもたちが多く、将来が楽しみ」と話されました。

メンバーは「大会で勝った時はすごく嬉しい。練習の時でも、完登したらすごく気持ちいい」とクライミングの楽しさについて話しました。

練習時間は17時～19時30分、大人の参加も歓迎します。ぜひ一度見学に来てみませんか？



▲練習風景

問 代表 樋口義朗 ☎090-4352-2497

ふ・れ・あ・い・ひ・ろ

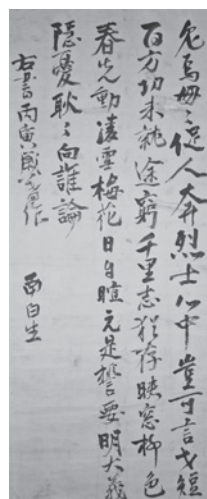
●連載34● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史 幕末・維新时期 佐賀・多久の賢人②江藤新平

今回は、ミニ企画展示「幕末・維新时期 佐賀・多久の賢人」の中から、江藤新平の作品を紹介します。

「佐賀の七賢人」のひとり江藤新平（号 南白）は、天保5年（1834）、佐賀城下八戸町に生まれました。貧しい下級武士の子でしたが、藩校弘道館などで学んだ後、脱藩して尊皇攘夷活動に身を投じます。脱藩の罪で永蟄居（無期限謹慎）となりますが、許された後は維新の原動力として活躍、明治新政府では司法卿として司法制度の整備や数々の法律

の制定に尽力しました。しかし明治7年（1874）、佐賀戦争（佐賀の乱）の首謀者のひとりとして処刑され、非業の死をとげました。多久聖廟には、江藤が詠んだ「聖廟詣」という漢詩の詩碑が建てられています。

今回展示している作品は、永蟄居の時に書かれた漢詩で、鬱々とした心情の中にも湧き上がる熱い思いを詠っています。



▲江藤新平筆 四行書

多久市郷土資料館・歴史民俗資料館・先覚者資料館

開館時間 / 9時～16時 入館料 / 無料

休館日 / 月曜日（月曜日が休日の場合は開館し翌火曜休館）

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《表の茅短歌会 互選》

人種超え 世界が悼む マンデラ師

祈りは深し 神となりしよ

恙なく 一年過ぎし年の瀬に

清しき心で 寺の鐘聴く

つぎ当てる 野良着で 畑を 打つ 祖母を

夕陽が染めた 遠いとおい日

冬枯れの 庭に 香りを 放ちつつ

健気に 耐えて 蠟梅の 咲く

手を振って 互みの 健在 知らせる

川をへだてて 姫の 年賀

本村 則子

俳句

《俳句 あざみ句会 互選》

恙なく 三代揃ふ 年の餅

どこからも 取れぬ 高さに 柚子 光る

寒の入り 爪切る 音の 撥ね える

お隣も 子を 叱る 声 大晦日

折り返し 出来ぬ 一生 冬薔薇

武富りつ子

大石ひろ女

川柳

《多久市川柳会 互選》

取締り 出来ぬ 空から 汚染され

人波の 動き 指揮する ボリス マン

お慶び 続きしかめる 髪 斗袋

青春の 心の 動き 止められず

耐えている 梅の つぼみに 話しかけ

井上 東子

西山 残月